

《履修上の留意事項》開講前に必ず指定教科書を購入し、講義の際には持参すること。
 レポート等の提出物の締切を厳守すること。
 講義の補足説明資料は適宜配付する。

《担当者名》 教授 / 三浦 宏子hmiura@ 准教授 / 松岡 紘史mazun@ 講師 / 植原 治osamu@
 講師 / 村田 幸枝y-murata@
 非常勤講師 / 水谷 博幸

【概要】

口腔の健康を保持・増進し、その疾病を予防するための自然科学的・社会的な知識を修得するとともに、関連する課題解決に必要な技能と態度を養う。これらの知識と技術を生かして、個人から集団を対象としたレベルでの口腔保健管理を実践できるよう理解を深める。

【学修目標】

- 口腔疾患の特性とわが国の歯科疾患罹患状況について説明できる。
- 口腔の置かれた環境と歯口清掃の目的、方法について説明できる。
- 齲蝕や歯周疾患の予防方法について説明できる。
- 地域や職域の口腔保健医療問題について考察できる。
- 歯科疾患の状況を評価する方法について説明できる。
- ライフステージに応じた歯科保健活動の概要を説明できる。
- 国際歯科保健と災害歯科保健に関する制度を説明できる。
- 個人、集団の両面から疾病予防、健康増進を図るための方略について説明できる。
- 保健指導および健康教育の方法について説明できる。
- 地域や職場におけるヘルスプロモーション活動について説明できる。
- 口臭の原因、予防法について説明できる。
- 歯科心身症の原因、予防法について説明できる。
- 歯科集団検診の意義、目的について説明できる。
- 問題解決型授業で自分の考えをまとめ、討論し、その内容について説明できる。
- 歯科的問題を衛生統計学的に解析し、その内容について説明できる。
- EBMに基づく歯科疾患の予防について説明できる。
- 歯科医療の専門家として知る必要のある社会保障制度について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 5 2	序論、口腔衛生の意義 1. 口腔保健と予防歯科 2. 口腔保健の現状 3. 歯科疾患の特性 4. 口腔衛生の意義 5. 口腔健康増進対策 6. 歯科医師の任務	口腔衛生学、予防歯科学は国民の口腔の健康と増進をはかる科学と技術であることを理解する。 口腔保健の現状を知る。 口腔保健に関する予防の概念（第一次予防、第二次予防、第三次予防）を知る。 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念から口腔保健を理解する。 我が国の口腔健康増進対策を知る。 口腔保健に関わる歯科医師の任務を知る。 B-3-1)- 、B-3-2)-	三浦 宏子
3 8	口腔の環境 1. 口腔組織の発育と機能 2. 口腔の不潔物 a. ペリクル b. バイオフィームとしてのデンタルプラーク c. 歯石 d. 舌苔 e. 歯の沈着物 3. 唾液の作用 4. Stephan曲線	歯とその周囲組織の発育と機能について知る。 齲蝕、歯周病は口腔常在菌による感染症であることを理解する。 デンタルプラーク、歯石の形成機序を知る。 デンタルプラークをバイオフィームの一つとして理解する。 デンタルプラーク、歯石の病原性を知る。 舌苔の組成、口臭との関連について知る。 歯に付着する外因性、内因性沈着物について知る。 唾液の作用を知る。 Stephan曲線を理解する。 B-3-1)- 、B-3-2)-	植原 治
9	歯口清掃	歯口清掃の目的と意義を知る。	植原 治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	1. 歯口清掃の目的と意義 2. 歯口清掃法 3. 歯口清掃とプラークコントロール 4. 歯磨剤 5. 歯口清掃指導	歯口清掃の方法を知る。 歯口清掃によるプラークコントロール効果と限界について知る。 歯磨剤の種類、基本成分、薬効成分を知る。 口腔保健指導の一環としての歯口清掃指導法について知る。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	
11 14	齲蝕の予防 1. 齲蝕の概念 2. 齲蝕の病因論 3. 齲蝕の発生要因（宿主要因、病原要因、食生活要因、環境要因、時間的要因） 4. 齲蝕リスク検査 5. 代用甘味料 6. 口腔保健指導	齲蝕の概念を知る。 齲蝕の病因論についての歴史的背景を知る。 齲蝕の発生要因（宿主要因、病原要因、食生活要因、環境要因、時間的要因）を理解する。 口腔の健康格差と社会的決定要因について理解する。 齲蝕リスク検査の目的と内容を知る。 代用甘味料の種類と効用を知る。 口腔保健指導の内容を理解する。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
15 16	中間試験および解説		担当者全員
17 18	フッ化物の応用 1. フッ化物による齲蝕予防 a. 全身応用 b. 局所応用 2. フッ化物の代謝 3. 急性中毒と慢性中毒	フッ化物の齲蝕予防に関する意義を知る。 フッ化物応用の歴史を知る。 齲蝕予防に関するフッ化物の作用機序を知る。 フッ化物の応用方法（フロリデーション、食品への添加、錠剤、フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口、歯磨剤への配合）とその予防効果について知る。 摂取されたフッ化物の代謝を知る。 フッ化物による急性中毒、慢性中毒について知り、その対処方法を理解する。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
19 20	齲蝕リスク検査実習	口腔の健康や歯科疾患予防の概念をより具体的に理解、習得するために、第一次予防における口腔のヘルスチェックや歯科疾患に対する感受性または活動性の測定とその評価方法について実習を行う。 B-3-2)-	担当者全員
21 23	歯周疾患の予防 1. 歯周病の定義、分類、特徴 2. 歯周病の発生要因、発生機序 3. 歯周病を修飾する因子 4. 歯周病の全身への影響	歯周病の定義、分類、特徴について理解する。 歯周病の発生要因、発生機序を知る。 歯周病を修飾する因子を知る。 歯周病の全身への影響、全身疾患の歯周病への影響を理解する。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
24	口臭の予防 1. 口臭の定義、分類 2. 口臭の原因 3. 口臭の検査法 4. 口臭の予防 5. 口臭への保健指導、健康教育	口臭の定義と分類を知る。 口臭の原因を知る。 口臭の検査法について知る。 口臭を予防ために口腔環境の改善や、全身疾患のコントロールの重要性を知る。 B-3-1)- 、 B-3-2)-	植原 治
25 28	歯科疾患の指標 1. 歯科疾患の疫学的特性 2. 齲蝕の指標 3. 歯周疾患の指標 4. 口腔清掃状態の指標 5. 歯のフッ素症の指標 6. 不正咬合の指標	口腔の健康状態を把握するには疫学的な調査が必要であることを知る。 口腔の健康状態を把握、評価するための方法（齲蝕の指標、歯周疾患の指標、口腔清掃状態の指標など）を知る。 B-4-2)-	植原 治
29 30	PCR実習	口腔の健康や歯科疾患予防の概念をより具体的に理解、習得するために、第一次予防における口腔のヘルスチェックや歯科疾患に対する感受性または活動性の測定とその評価方法について実習を行う。 B-3-2)-	担当者全員

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
31 32	口腔の健康と全身の健康 1. 全身疾患と口腔疾患 2. 生活習慣と口腔疾患	全身の健康と口腔の健康との関わりについて知る。 食事、喫煙、飲酒、ストレスなどのライフスタイルが口腔保健と関連することを知る。 糖尿病、循環器疾患、メタボリックシンドローム、呼吸器系疾患などと口腔疾患との関わりについて知る。 B-1-	三浦 宏子
33	禁煙指導・支援	タバコ使用への介入の背景について、喫煙の健康への影響、禁煙介入を行う理由、歯科で禁煙を行う理由について理解する。 禁煙支援・指導の実施について理解する。 F-3-2)-	松岡 紘史
34 35	地域歯科口腔保健 1. 地域歯科口腔保健の概念 2. 地域歯科口腔保健関連法規 3. 地域歯科口腔保健活動 4. 生涯を通じた地域歯科口腔保健	生活圏における住民主体のサービスとしての地域歯科口腔保健を理解する。 健康増進法、歯科口腔保健法を理解する。 科学的根拠に基づいた地域歯科口腔保健活動とPDCAサイクルの重要性を知る。 生涯を通じた地域歯科口腔保健の重要性を知る。	三浦 宏子
36 37	母子歯科口腔保健 1. 母子歯科口腔保健の意義 2. 妊産婦の口腔保健 3. 乳幼児の口腔保健 4. 1歳6か月児歯科健康診査 5. 3歳児歯科健康診査 6. 児童虐待と歯科医療	母子歯科口腔保健の意義を知る。 妊産婦の口腔の変化を知り、口腔保健指導を考える。 乳幼児の口腔の変化を知り、口腔保健指導を考える。 1歳6か月児および3歳児の歯科健康診査の意義と実施内容について知る。 歯科医療関係者として児童虐待の発見が可能であることを知る。	村田 幸枝
38 39	学校歯科口腔保健 1. 学校歯科口腔保健の意義 2. 学校歯科口腔保健の現状 3. 学校歯科医の職務 4. 歯・口腔の健康診断 5. 健康相談、保健指導、事後措置	学校歯科口腔保健の意義を知る。 学校歯科口腔保健の現状を知る。 学校歯科医の職務、役割を知る。 歯・口腔の健康診断の意義と目的を知る。 健康相談、保健指導、事後措置を知る。	村田 幸枝
40	歯科心身症 1. 歯科心身症の分類 2. 歯科心身症の診断 3. 歯科心身症の治療	歯科心身症の内容を理解する。 歯科心身症への対処法について知る。 B-1-	松岡 紘史
41	障害児・者の口腔保健 1. 障害児・者の口腔保健の現状 2. 障害児・者への歯科口腔保健サービスの提供状況	障害児・者における歯科口腔保健上の課題と現状について知る。 障害児・者への歯科口腔保健サービスの提供を支える公的システムの概要を知る。 B-2-2)	松岡 紘史
42 43	口腔内診査実習	口腔の健康や歯科疾患予防の概念をより具体的に理解、習得するために、第一次予防における口腔のヘルスチェックや歯科疾患に対する感受性または活動性の測定とその評価方法について実習を行う。 B-3-2)-	担当者全員
44	災害口腔保健	災害時の歯科の役割を知る。 災害時における地域歯科保健医療体制を知る。 B-2-2) ~	水谷博幸
45	中間試験		担当者全員
46	国際口腔保健	世界の口腔保健状況を知る。 途上国における歯科医療協力を知る。 世界の口腔保健目標を知る。 ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）と歯科保健医療との関係を知る。 B-2-2) ~	三浦宏子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
47	EBMとオーダーメイドヘルスケア 1. EBM (Evidence Based Medicine) 2. 自由裁量権と自己決定権 3. NBM (Narrative Based Medicine)	EBMに基づく予防を行うためのアセスメントを知る。 EBMとインフォームドコンセントの関連を知る。 自由裁量権と自己決定権を知る。 個人の生活背景や人格、価値観に合わせたヘルスケアを考える。 NBM (Narrative Based Medicine)を知る。 B-4-1)-	松岡 紘史
48	産業歯科口腔保健	産業歯科口腔保健の意義を知る。 職場における口腔保健活動を知る。 口腔にみられる職業性疾患を知る。 B-2-2)	松岡 紘史
49	成人歯科口腔保健	健康増進法に基づく歯周疾患検診を学ぶ。 特定健診・保健指導における標準的質問票の意義と内容について学ぶ。 歯周疾患検診後の保健指導の意義を知る。 B-3-1)	三浦 宏子
50	高齢者歯科口腔保健	介護保険法による介護予防と歯科口腔保健との関連を知る。 後期高齢者健康診査と歯科口腔保健との関連を知る。 地域包括ケアシステムにおける歯科保健の重要性を知る。 要介護高齢者への口腔衛生管理と口腔機能管理を知る。 B-2-2)	三浦 宏子
51 52	歯科疾患実態調査と関連する国の統計 1. 歯科疾患実態調査 2. 国民健康・栄養調査 3. 国民生活基礎調査 4. 患者調査	国の統計調査における歯科疾患実態調査の位置づけを知る。 平成28年度に行われた歯科疾患実態調査の概要、日本人の口腔保健状況を知る。 国民健康・栄養調査、国民生活基礎調査、患者調査における歯科口腔保健データを把握する。 B-4-2)	三浦 宏子
53 54	行動科学と口腔保健指導、健康教育 1. 行動科学理論 2. 保健指導 3. 健康教育 4. ヘルスリテラシー	行動科学理論を理解する。 保健指導と健康教育を区別して理解する。 指導型健康教育と学習援助型健康教育の特徴を理解する。 ヘルスリテラシーを知る。 B-3-2)-	松岡 紘史
55 56	問題解決型授業 (PBL) 1. グループ学習 2. プレゼンテーション	小グループに分かれ、口腔衛生的状況を例に、問題点の抽出、解決策などを調べ、考察し、発表する。 A-2-1)-	担当者全員
57 58	疫学・歯科衛生統計演習	疫学指標の意味を理解し、計算方法を理解する。 疫学研究に必要な統計学的考え方を理解し、計算方法を体験する。 B-4-2)-	松岡 紘史
59 60	保健教育実習	対象者の知識レベルにあわせた視聴覚媒体を作成する。 B-3-2)-	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

前期60点以上、後期60点以上で合格とする。

レポート点は、前・後期とも全体評点の1割とし、9割は中間試験と定期試験の成績で評価する。

中間試験ならびに定期試験の担当者ごとの配点は、担当講義時間数（各実習とPBLを除く）に比例して割り付けられる。

口腔衛生学としての通年評価

前期と後期を同等に扱い、60点以上を合格とする。

【教科書】

口腔保健・予防歯科学 第2版（安井ら 編、医歯薬出版）

口腔衛生学実習書

【備考】

授業プリントなどは、必要に応じてその都度配布する。

実習レポートの提出期限を厳守すること。

指定教科書を授業の際に持参すること。

【学修の準備】

予習（40分）：教科書の該当内容について必ず事前に一読し、疑問点を整理しておくこと。

復習（40分）：授業内容を振り返り、重要項目を整理して理解すること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。（多職種連携能力）

【実務経験】

三浦 宏子（歯科医師）、松岡 紘史（公認心理師）、植原 治（歯科医師）、村田 幸枝（歯科医師）、水谷 博幸（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

口腔衛生学は、個人の健康のみならず、地域社会、国際社会全体に寄与する科目であり、学理に則った教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。